

【週刊タバコの正体】

Vol.50 第5話～第8話

2021年10月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 50

(No. 679) 第5話 コロナ禍の喫煙所

ーコロナ禍で職場や公共施設の喫煙所が減って...

新型コロナの感染拡大とその予防対策のため、私たちの生活様式は少なからず変化しました。上図は、ある会社の商品紹介サイトに掲載されている、そんな変化の一例です。このサイトでは、コロナの影響で喫煙所が少なくなり待ち時間が増え、時間やスペースのロスが増えているうえ、密集して感染リスクも高くなっていると指摘し、そんな課題を解決するためのサービスを提案しています。

実際、都会のオフィスビルでは写真のように喫煙室に入るために行列ができています。コロナ禍においては、タバコを吸うために、こんなに労力が必要になっているのです。

(No. 680) 第6話 Withoutタバコ

ー「Withコロナ」時代は「Withoutタバコ」の生活が望まれる時代...

新型コロナウイルス (COVID-19) が人間社会に登場してから約1年半が経過しました。日本における今までの感染者は約170万人、死者は約1万8千人にのぼっています。この状況に対応するため厚生労働省では感染者の情報を把握管理する仕組み (HER-SYS) を整備して治療・療養の支援を行っています。

左の表は、そのシステムで収集された情報をもとに、感染すると重症化するとみられる要因別の死亡率をまとめたものです。重症化リスクを一つも持っていない人で死亡する人は0.41%だったそうです。だから、たとえば喫煙習慣がある人の0.99%は、その2倍以上もあり死亡率は2倍高いと言えます。

(No. 681) 第7話 加熱式タバコも有害

ー加熱式タバコや電子タバコという文字を目にする機会が増えて...

タバコと言えば、ライターで火をつけて吸うものですが、数年前に燃やさずに吸える新型タバコが登場して以来、利用者は増加しました。新型タバコにはたばこの葉を使用する”加熱式タバコ”と使用しない”電子タバコ”があります。日本では葉事法で溶液にニコチンを入れる事が禁止されているので電子タバコにはニコチンが含まれていません。だから世間の喫煙者が使用しているのは、加熱式タバコがほとんどです。

(No. 682) 第8話 そんな事はない

ー喫煙率の低下に伴いタバコの販売数も減少して...

全国でタバコは年間どのくらい販売されているのでしょうか。左のグラフは年度ごとの販売量を表したグラフです。今から35年前の1996年には「3483」という数字が記されています。これはこの年に3483億本も売れたという事なのです。ちょっとイメージできないぐらい膨大な数字ですが、仮に日本の人口約1億人全員がタバコを買ったとすると一人あたり3483本になる計算です。

しかし、時代が移りタバコの有害性が広く知られるようになるに連れ、ほとんど販売量は減り昨年は35年前の1/3以下にまで減少しました...

volume 50 Serial number 679 第5話
週刊 タバコの正体

2020年喫煙所に起きている変化

- 1 以前は多くあった喫煙所も、健康増進法や、コロナの影響で減らされるばかり
- 2 数が減らされ、直ぐもつ喫煙所は、タバコを吸うための待ち時間や、待ち時間が増えるに悩んでいる状況
- 3 少ない喫煙所に並んで待つ間に、感染リスク

その変化がもたらす、喫煙所の新たな課題

並ぶことによる時間のロス
喫煙室までの距離が長くなる、そして喫煙室に並ぶのに時間がかかる。待ち時間も増える。待ち時間も増える。

並ぶ列が占有するスペース
喫煙室までの距離が長くなる、そして喫煙室に並ぶのに時間がかかる。待ち時間も増える。待ち時間も増える。

密集による感染リスク
狭い空間で多くの人々が集まる。感染リスクが高くなる。

新型コロナの感染拡大とその予防対策のため、私たちの生活様式は少なからず変化しました。上図は、ある会社の商品紹介サイトに掲載されている、そんな変化の一例です。このサイトでは、コロナの影響で喫煙所が少なくなり待ち時間が増え、時間やスペースのロスが増えているうえ、密集して感染リスクも高くなっていると指摘し、そんな課題を解決するためのサービスを提案しています。



実際、都会のオフィスビルでは写真のように喫煙室に入るために行列ができています。コロナ禍においては、タバコを吸うために、こんなに労力が必要になっているのです。

だから、やっぱりタバコは吸い始めない、そして吸っている人は禁煙する事が一番ですね。



産業デザイン科 奥田 恭久

volume 50 Serial number 682 第8話
週刊 タバコの正体



全国でタバコは年間どのくらい販売されているでしょうか。左のグラフは年度ごとの販売量を表したグラフです。今から35年前の1996年には「3483」という数字が記されています。これはこの年に3483億本も売れたという事なのです。ちょっとイメージできないぐらい膨大な数字ですが、仮に日本の人口約1億人全員がタバコを買ったとすると一人あたり3483本になる計算です。



しかし、時代が移りタバコの有害性が広く知られるようになるに連れ、ほとんど販売量は減り昨年は35年前の1/3以下にまで減少しました。そして、それに連動するようにタバコの自動販売機の台数も激減しています。左下のグラフにあるように、15年前には60万台以上も設置されていたが、現在では1/5の12万台にまで減少しました。

皆さんのようにタバコの有害性を知り、一生タバコを必要としない人は今後も増え続けるでしょうから、タバコはもともと売れなくなると思います。そんなのは、いずれタバコを販売する必要がなくなる時代を迎えられるかもしれません。

「そんな事はない」と思いますが、時代は変わるもですらね。



産業デザイン科 奥田 恭久

毎週火曜日発行



URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

- ※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
- ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
- ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

